

# 第36期(第5回)社会教育委員会議次第

日時：令和4年3月15日(火) 10:00～

## 1. 開 会

## 2. 議事・報告事項

- (1) 第36期第4回会議議事録（要旨）の確認について
- (2) 令和3年度 事業報告
- (3) 公民館利用者アンケートについて
- (4) 子供に対する社会教育の取り組みについて
- (5) その他

## 3. 閉 会

学ぶ・活かす・つながる  
～そして、明日の神戸～



生涯学習のマスコット  
「マナビイ」

**第 3 6 期（第 4 回）神戸市社会教育委員会議事録（要旨）**

1. 日 時：令和 3 年 1 2 月 1 6 日（木） 1 4：3 0～1 7：3 0
2. 場 所：神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室(大)
3. 出席者：
  - (1) 社会教育委員 9 名（内オンライン参加者 4 名。森田委員欠席）
  - (2) 事務局 安田課長（埋蔵文化財センター）、小野田課長（博物館学芸課）、村井担当課長（中央図書館） 他
4. 開 会：政策調整担当課長
5. 議事・報告事項：
  - (1) **第 3 6 期第 3 回会議議事録（要旨）の確認について**
    - （事務局）資料 1 により、前回の会議議事録（要旨）について説明。
    - （議 長）質問、意見はあるか。
    - （委 員）特に質問、意見なし
  - (2) **令和 3 年度 事業報告**
    - ① **文化スポーツ局文化財課事業報告について**
      - （事務局）資料 2 により、「文化財課の事業」について説明。
      - （議 長）ご質問、意見はあるか。
      - （議 長）前回、意見のあったボランティア活動のアピール推進はいかがか。
      - （事務局）来年度に向けてボランティアを中心にしたいろいろな取り組みの検討を進めている。
      - （議 長）進展があったらこの場でのご報告をお願いします。
      - （事務局）今年度より実施の「神戸歴史遺産」新制度について説明。
      - （議 長）ご質問、意見はあるか。
      - （委員全員）特に質問、意見なし
    - ② **博物館学芸課事業報告について**
      - （事務局）資料 3 により、「博物館、美術館の事業」について説明。
      - （議 長）ご質問、意見はあるか。
      - （議 長）子ども向けの学校での体験授業において、媒体者が入るとより豊かな学びができる、学校と施設の間に市民、住民、ボランティアなどの媒体者が関わっているとその大人の学びも得られ一挙両得と言われているが、神戸においての動きはどのようになっているか。
      - （事務局）博物館で例をあげると学習支援交流員という形で生涯学習の場として経験やスキルを活かしていただけるようワークショップ実施や案内をさせていただいている。人数が増えれば学校へ出向いて実施も検討していく。
      - （議 長）学習支援交流員というのは組織化されているのか。
      - （事務局）登録されている人数は約 5 0 名で博物館内のワークショップや居留地案内などで活動していただいている。

(委員) 感想になるが、コロナ禍で博物館や美術館の運営では苦勞されていると思う。資料で出している入場者数や参加者数について単純に比較できなくなっていることや、今後の定員数に関する考え方も一般的にいろいろなところで課題になってくると感じている。

(事務局) 博物館などは換気が難しいこともあり定員制限など実施している、データ比較についてもご指摘いただいたとおりだと考えている。

(議長) コロナ禍であれば量的な成果は問われないと思うが、コロナの終息後でも制限などにより量的な評価が得られなくなることが考えられるため、実施内容や反響による効果等においての価値による評価を得られるような必要が出てくる、つまり質的な評価を得る必要があると感じた。

他に質問、意見はあるか。

(委員全員) 特に質問、意見なし

### ③ 文化スポーツ局スポーツ企画課事業報告について

(事務局) 公民館所管課である文化スポーツ局スポーツ企画課からは他業務のために本日出席ができていないが資料(資料4)報告されている。

(委員) 資料について定員数はわかるが、実施による実績数はどうか。

(事務局) 講座については従前から好評であるので定員数に近い参加であると考えられる。

(議長) 公民館企画の活動の中でSDGs 関わるものは何かないか。

(事務局) 今回の資料にあるチラシの中では明確に確認できないが、教育委員会が所管していた昨年度まではSDGs に該当する講座も実施がありチラシでSDGs 関連であることを表記していた。

(議長) 移管したとはいえ、世間の社会経済の動向と関連のない課題ばかりを取り上げるばかりではいけない。文化スポーツ局に移管されスポーツ・文化活動を通じて社会の問題や課題に関与するような学習が生まれてくるという理想を考えた時には、しっかりとしたプランを持っていないと公民館とは言えない。そうでなければ公民館廃止につながることになる。社会教育委員会議長の議長として、より公共性のある活動との連続を生み出す可能性のある企画を公民館の中でも実施いただきたい。またそれとつながりが見える形での広報もお願いしたい。

(委員) 社会教育委員会議での議論すべき内容であれば所管部局と直接協議したい。

(事務局) 基本的に公民館所管課にも出席依頼をするが、今回は他業務と重なり欠席となっており申し訳ない。次回会議には出席できるよう依頼する。

(議長) ぜひ、次回会議には所管課に来ていただきたい。社会教育という範囲をどのようにとらえて、社会教育委員会議が何を、どんな範囲を、どんな事項について議論すべきかが、あいまいになってきている。社会教育に関わるいくつかの所管のプラットフォームとしてこの会議が成り立つべきである。社会教育は学校以外のさまざまな全ての教育を含むものであるから、幅広

く考え、いろいろな人たちが関わり意見を交わしたことを、それぞれが持ち帰るようなプラットフォームとして会議を運営していく必要があるのではないかと考えている。

他に質問、意見はあるか。

(委員全員) 特に質問、意見なし

### (3) 第3次神戸市子供読書推進計画の検証について

(事務局) 検証について資料5の事前配布による報告説明。

報告に対する事前確認の質疑事項について該当所管課より説明。

(議長) ご質問、意見はあるか。

(委員) 不読率に関して全国平均に比べて神戸の数字が低いという事についての原因について何か理由や分析があるか。

(事務局) 子供読書推進計画は平成16年度より第1次が実施されている。それからは不読率は下がってきているが、全国的にも同様に下がっており、結果として差が縮まっていない。平成26年度からは学校図書館司書等を配置して更に効果は出ている。身近なところで子供が本にふれるのは学校だととらえているため積み重ねを継続して読書推進をしていく。

(委員) 不読率については高いことが必ずしも悪いとは限らない場合がある。小学校などで朝の一斉読書を行っているが強制で読ませれば本を1冊も読まない子供は出ないため不読率は低くなる。しかし、本来、本を読むことは強制させられるものではないため、その自由は保障されるべきだと考える。一概に不読率だけで評価する必要はない。

(議長) 神戸の自由度が高いということが理由かもしれないが、もうひとつ仮説が立てられそうなのは、一斉読書で子供たちが自由に選んで読んでいるのが教科書などに載っているものであり1冊としてカウントされないことも考えられる。電子書籍をどのようにとらえているかも影響はあると思う。

他に質問、意見はあるか。

(委員全員) 特に質問、意見なし

### (4) 「子供に対する社会教育の取り組み」について

(事務局) 議題設定についての趣旨説明。

社会教育施設での「子供に対する社会教育の取り組み」に関する事業について所管課より説明。

(委員) 青少年会館での取り組みについて運営、事業について説明。

(議長) 説明のあった事業等にご質問、意見はあるか。

(委員) 学校外で、悩みを持つ人がつながれる場所があることは大切であり、学校もそこにつながっていく必要があると感じる。学校現場におけるコミュニティも様々な形で変化をしている。悩みを持つ保護者にどのように接していくのか、どう対応すればよいのかが課題ととらえている。保護者や地域

に対し情報を発信し、収集する方法を考えている。

(議長) 学校の場合、つながるとなると保護者が主な対象となる。社会教育施設で活躍する人たちとは対象の世代が異なる。社会教育行政が信頼できる情報やつながる仕組みを提供していく必要がある。

「子供に対する社会教育の取り組み」という議題については、様々な課題や期待がある。今後も引き続き議論していくテーマであると考えている。

**7. 閉 会**：政策調整担当課長

【以上】

## 社会教育委員会議資料

## 神戸市埋蔵文化財センター 令和3年度下半期事業実績

## ○冬季企画展「神戸・うつりかわる町とくらし2～昭和ノスタルジー～」

うつりかわる神戸の町並みなどを写真や地図などを通じて紹介するとともに、昭和時代の懐かしい給食や学用品などを紹介。

会期：1月15日（土）～3月6日（日）（開館日数43日）

入館者数：4622人（2月末現在）

## ○入館者数推移

4月	2835人	（令和2年度	0人）	（団体見学11（R2：0））
5月	1217人	（令和2年度	266人）	（団体見学2（R2：0））
6月	1378人	（令和2年度	958人）	（団体見学7（R2：0））
7月	1851人	（令和2年度	943人）	（団体見学3（R2：0））
8月	1600人	（令和2年度	1188人）	（団体見学0（R2：0））
9月	1717人	（令和2年度	1853人）	（団体見学2（R2：2））
10月	1986人	（令和2年度	1911人）	（団体見学6（R2：8））
11月	2400人	（令和2年度	458人）	（団体見学11）（R2：0））
12月	839人	（令和2年度	0人）	（団体見学1（R2工事休館））
1月	2351人	（令和2年度	1607人）	（団体見学7（R2：3））
2月	2843人	（令和2年度	2918人）	（団体見学2（R2：3））

## ○連携事業

11月3日（水/祝） おおとし山まつり 垂水区連携 665人（R2は中止）

## ○連続講座「こうべ考古学」

第1回	6月12日（土）	「こうべの縄文時代」	聴講者61人
第2回	7月17日（土）	「こうべの弥生時代」	聴講者73人
第3回	9月25日（土）	「こうべの古墳時代」	聴講者68人
第4回	10月23日（土）	「こうべの奈良・平安時代」	聴講者77人
第5回	11月27日（土）	「こうべの鎌倉・室町時代」	聴講者77人
第6回	1月22日（土）	「こうべの江戸・明治時代」	聴講者67人
第7回	2月26日（土）	「こうべの遺跡と保存科学」	聴講者60人

## 令和3年度の特別展

## 博物館

※博物館は、令和3年8月30日（月）より令和4年2月4日（金）まで空調工事のため休館

展覧会名	会期	入館者数
特別展 東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展	【当初】 令和3年（2021）4月24日（土） ～6月6日（日）【39日】 【変更】 令和3年（2021）4月24日（土） ～6月9日（水）【28日】 ※緊急事態宣言を受け、 4月25日（日）～5月11日（火）は、臨時休館	25,815人（922人/日）
特別展 伊能図上呈200年記念特別展 伊能忠敬	令和3年(2021)7月10日（土） ～8月29日（日）【43日間】	14,019人（366人/日）
特別展 大英博物館ミイラ展 古代エジプト 6つの物語	令和4年(2022)2月5日(土) ～令和4年5月8日(日)【81日間】	・2月20日（日）までの入館者 14,933人（1,066人/日） ・想定入館者 155,000人（1,913人/日）

## 小磯記念美術館

展覧会名	会期	入館者数
特別展 住友コレクション名品展 —フランスと近代洋画—	令和3年(2021)年9月4日(土) ～11月14日(日)【62日間】	13,425人（206人/日）
特別展 貝殻旅行 —三岸好太郎・節子展—	令和3年(2021)年11月20日(木) ～令和4年(2022)2月13日(日)【69日間】	5,757人（83人/日）

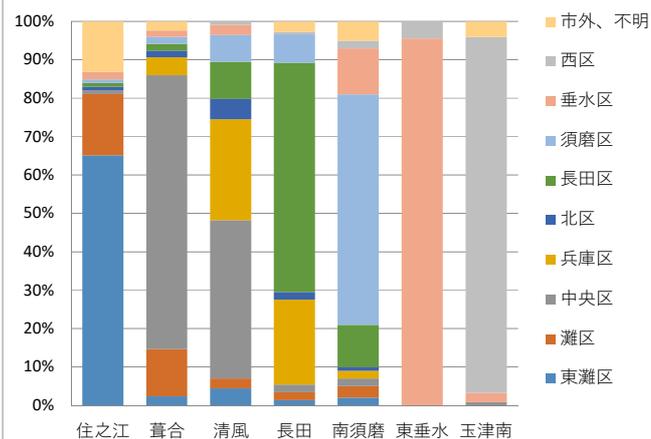
## 神戸ゆかりの美術館

展覧会名	会期	入館者数
特別展 GIGA・MANGA 江戸劇画から近代漫画へ	【当初】 令和3年（2021）4月24日（土） ～7月4日（日）【69日】 【変更】 令和3年（2021）4月24日（土） ～7月18日（日）【61日】 ※緊急事態宣言を受け、 4月25日（日）～5月11日（火）は、臨時休館	5,478人（89.8人/日）
特別展 ミロマチコ いきものはわたしのかがみ	令和3年(2021)10月2日(土) ～12月19日(日)【68日間】	12,082人（177.7人/日）
特別展 海を渡った版画家たち 人生100年版画家・平塚運一 と神戸・神原浩	令和4年（2022）1月15日(土) ～3月27日(日)【62日間】	・2月20日（日）までの入館者 1,105人（34.5人/日） ・想定入館者 2,500人（40.3人/日）

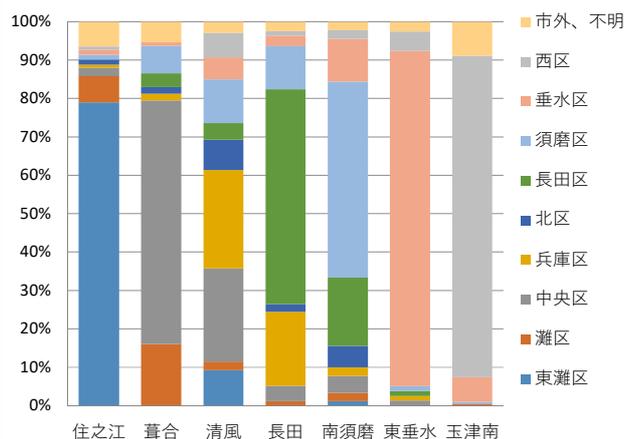
02年度

03年度

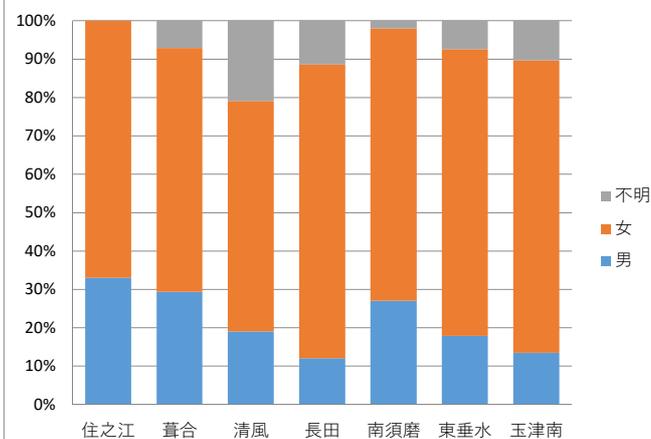
①住所（7館比較）



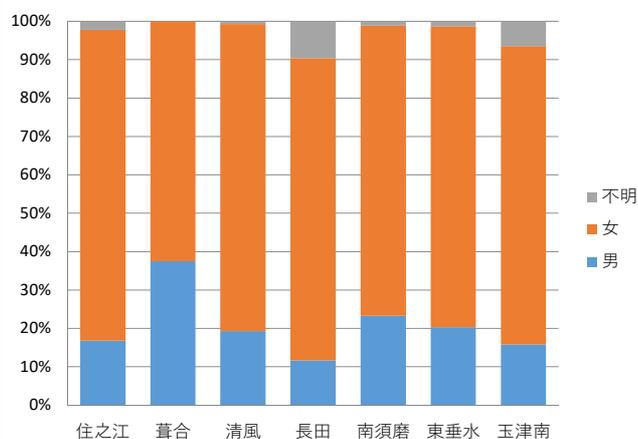
①住所（7館比較）



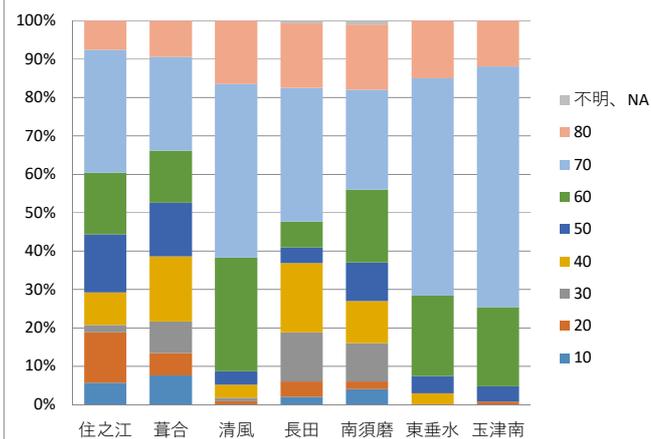
②性別（7館比較）



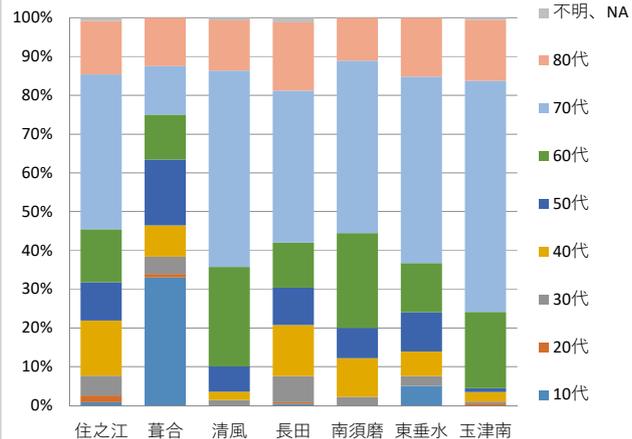
②性別（7館比較）



③年齢（7館比較）



③年齢（7館比較）

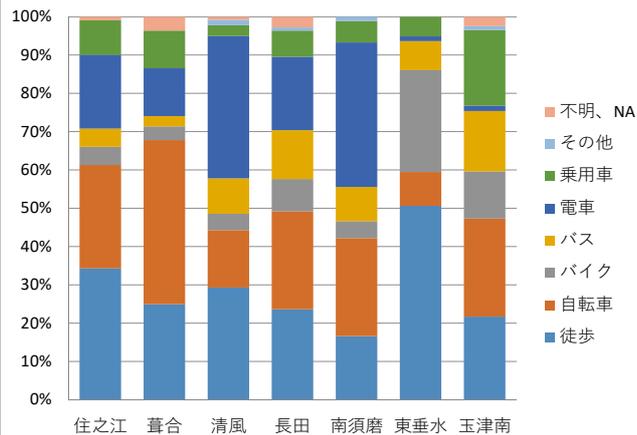
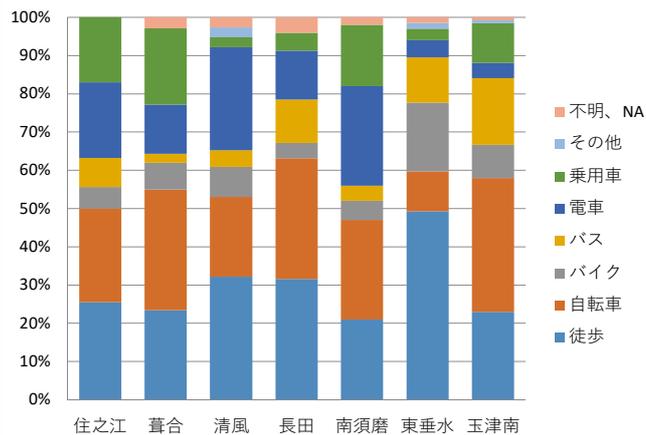


02年度

03年度

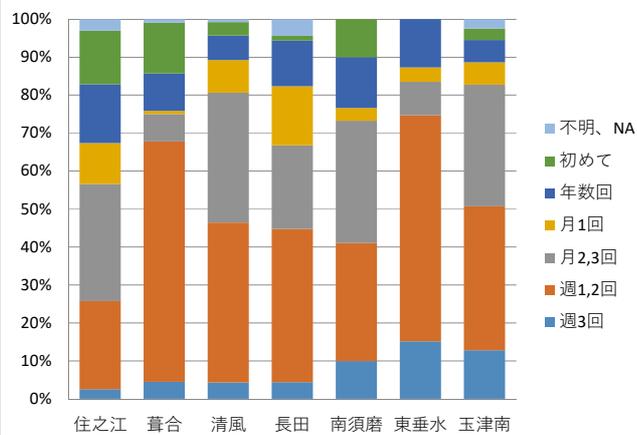
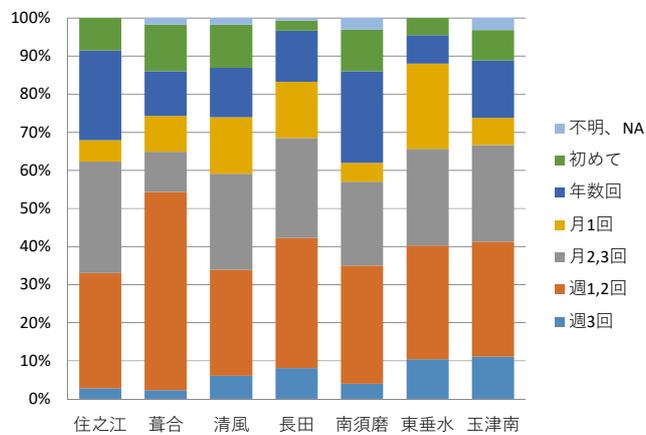
④交通手段（7館比較）

④交通手段（7館比較）



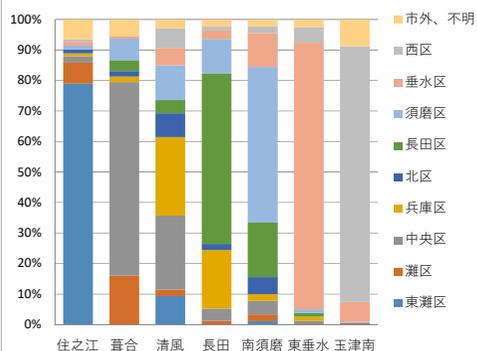
⑤利用頻度（7館比較）

⑤利用頻度（7館比較）

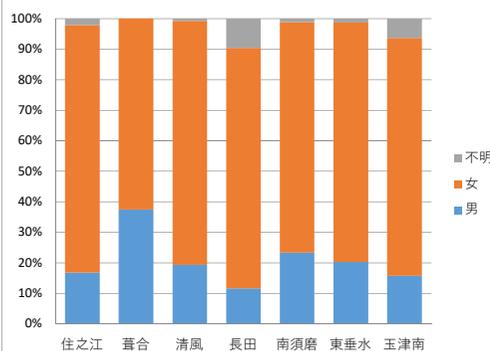


## 令和3年度 公民館アンケート集計結果①

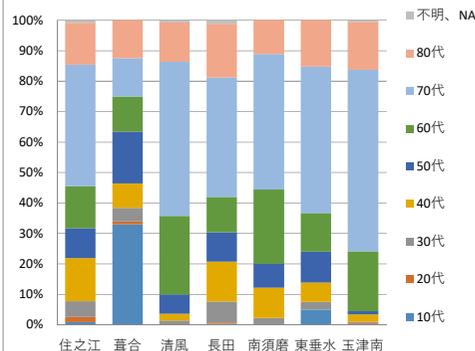
①住所（7館比較）



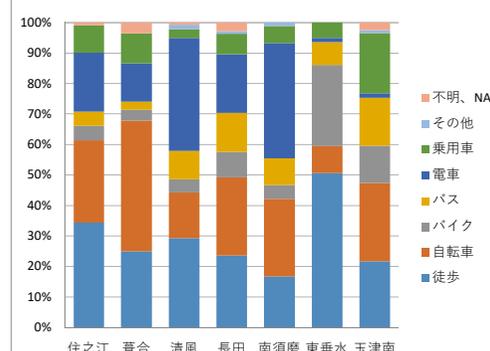
②性別（7館比較）



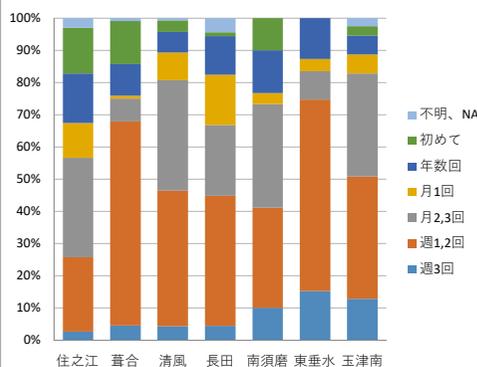
③年齢（7館比較）



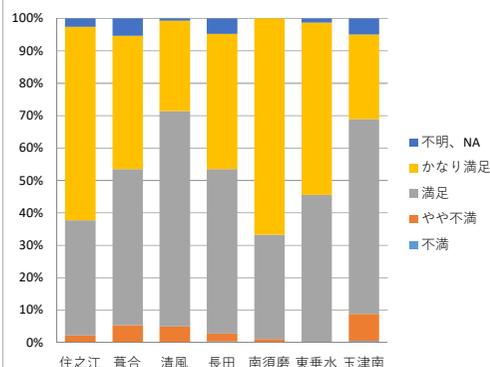
④交通手段（7館比較）



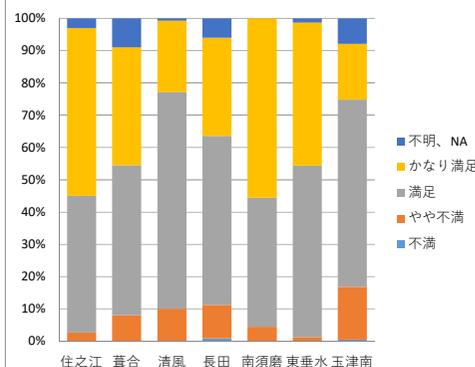
⑤利用頻度（7館比較）



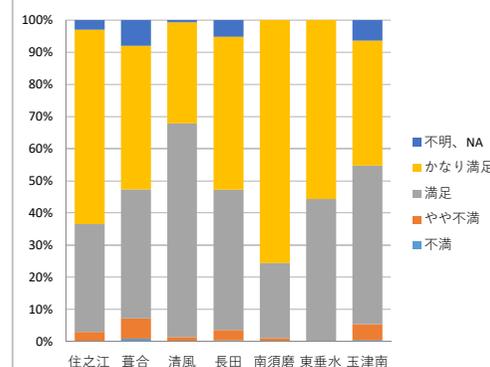
⑥清潔感（7館比較）



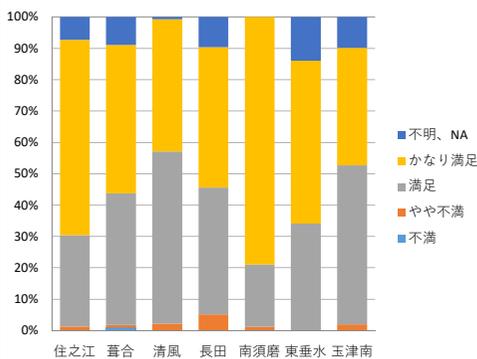
⑦設備や備品（7館比較）



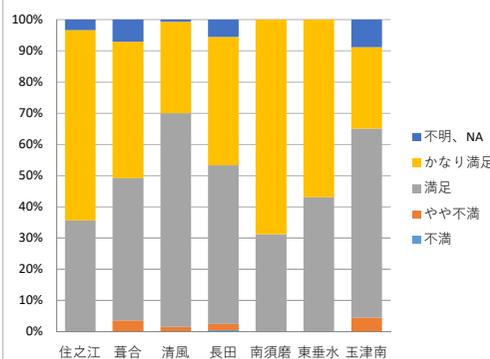
⑧職員の対応（7館比較）



⑨受講料や使用料（7館比較）



⑩全体的な満足度（7館比較）

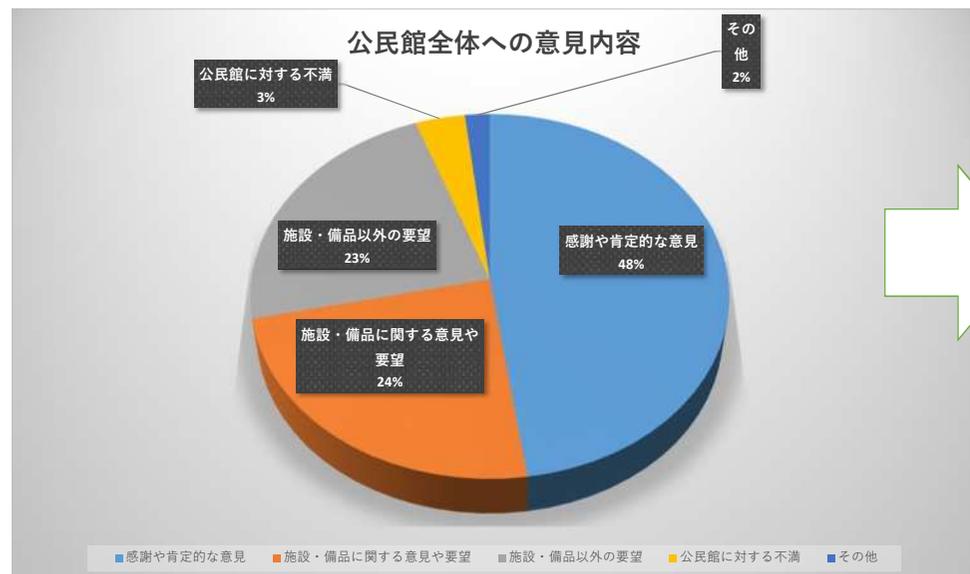


## アンケート集計結果と分析

回答数：1107

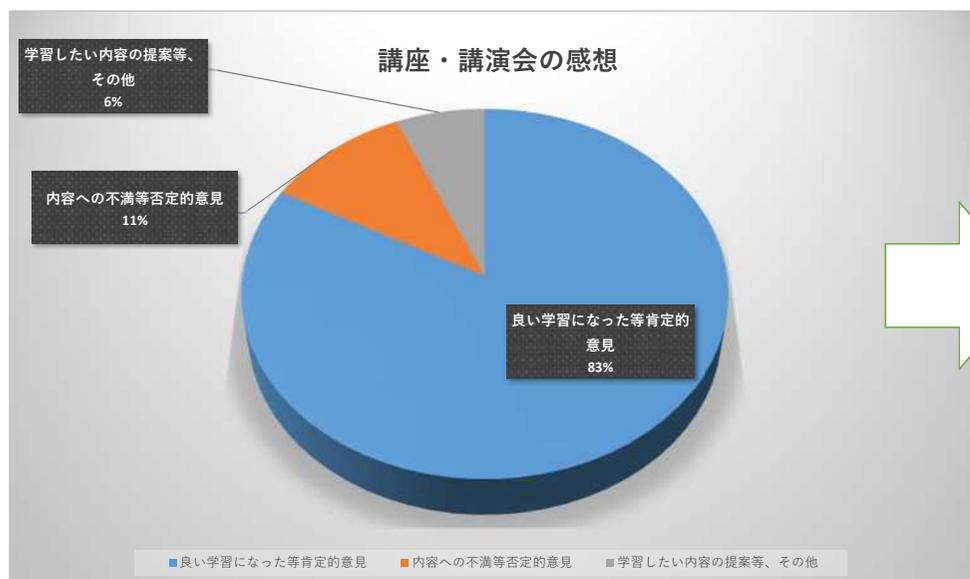
- ①清風公民館は、昨年度よりも中央区からの利用者の割合が減少し、他区からの利用者が増えている。
- ②女性の利用が多い傾向は変わらないが、男性利用者の割合が増加している公民館がある。（葦合・東垂水・玉津南）
- ③高齢者の利用が多い傾向の中、住之江・葦合・東垂水は10代～40代の利用者の割合が増加している。
- ④立地条件により、電車・バスの利用が容易である住之江・清風・長田・南須磨、自転車の利用が多い葦合、徒歩の利用者が多い東垂水と傾向が顕著である。
- ⑤概ね、初めての利用者の割合よりも、リピーターが多い傾向にある。概ねどの館も月2,3回以上の利用者が6割～8割を占めている。葦合・東垂水は、他の公民館に比べ、週複数回利用者数の割合が高い。
- ⑥～⑩は、7公民館とも同様の傾向が見られるが、概ね利用に満足だと分析できる。
- ⑦設備や備品について、不満をもたれている割合がやや高い。
- ⑧職員の対応に関して、不満を持たれている館もある。館内で共有し、親切丁寧な対応が求められる。
- ⑨受講料を含め、⑩全体的な満足度は、およそ9割の利用者から満足を得ている。これまでの利用者とのつながりを大切にし、新規利用者層の獲得を目指したい。

## 令和3年度 公民館アンケート集計結果②-1



### 「公民館全体への意見内容」について

- 全体の48%が肯定的な意見であり、週に複数回来館し学習をする利用者にとっては、公民館が一定の居場所を提供していると思われる。
- 職員の対応、清掃や手入れ等への丁寧さと清潔さへの感謝の言葉、職員への労いの言葉も散見できる。
- 講座などの企画、地域への協力体制への感謝の意見も見られる。
- 施設・備品に対する要望が全体の24%を占めている。複数ご意見をいただいている内容としては、エレベーターの設置、洋式トイレの増加、設備・備品の老朽化による新調というものである。その中でも、エレベーター設置に関する要望が特に多30%を占めている。
- 施設や備品以外の要望も23%を占めている。館それぞれへ向けた要望や講座への期待も含まれており、対応可能なものについては各館対応が必要である。
- 施設や設備以外の要望として多いのは、利用者の駐車場スペースの確保や運用の拡充についてである。
- 公民館に対する不満としては、駐輪場の拡充、夜間活動時間帯の職員配置、改修工事で活動ができない、利用団体の終了時間が守られていない点について意見が寄せられている。



### 「講座・講演会の感想」について

- 講座やセミナーを受講して良かったという回答が多く、83%を占めているが、より高い満足度が得られるよう、講座・セミナーの内容は吟味して企画したい。また、各館で毎回開催している講座への感想が多く、学び続けたいと感じられる受講生がいることから、定例の講座・セミナーは今後も継続していくが、新たな利用者層獲得のための努力も必要である。
- 講座・セミナーに参加して、満足が得られなかった利用者の割合は11%である。内容としては、マイクの音量が小さく聞き取りにくかったという残念な想いをして帰られた方もおり、運営者側の配慮により改善できる問題もあった。また、資料に関してと内容に関しても少数ではあるが意見をいただいている。講座・セミナーの企画者と、講師との間での情報交換や打合せがより充実すれば、否定的な意見が少なくなった可能性も否定できず、今後の課題としたい。内容については、市民のニーズも踏まえながら、社会教育施設としての公民館の役割を果たせるよう、内容を精選していきたい。
- 講座に対する提案が6%あり、内容としては健康増進を多く扱ってほしい、子供向け講座を充実させてほしい、平日に開催してほしいなどのお声をいただいた。

## 令和3年度 公民館アンケート集計結果②-2

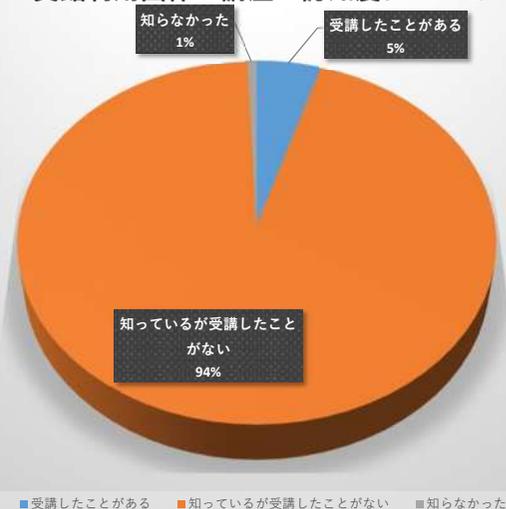
### 「取り組んでみたい学習還元」について

登録グループの皆さんから寄せられた意見は以下の通りである。

- ・学習還元講座を開講したい。  
→ギター教室、卓球、健康体操、バレーボール、リコーダーのグループの方から意見が寄せられた。
- ・作品展、発表会などの公民館祭への参加による学習還元を行いたい。
- ・館外の作品展に参加したい。
- ・体験学習会を開催してほしい。

講座や作品展、発表会など、学習還元方法は違えど、日頃の学習の成果を披露したいという前向きな声を多くいただいた。また、還元を通して登録グループの参加人数が増えてくれることを願う意見も多数あった。

### 貸館利用団体の講座の認知度について



### 「貸館利用団体の講座の認知度と開催希望講座」について

- 貸館で利用している団体の99%の方が、公民館で講座を行っていることを知っていることが分かる。繰り返し利用している団体も多いので、公民館の講座事業については認知度が高いと言える。
- 受講したことがある方は、全体の5%に留まっている。認知度は高いが、講座を受けようというところまで行っていない現状のようである。公民館利用者の年齢層が、60代～80代の方が多く、特に70代の方が1番多いのに対し、貸館として利用されている方の年齢層は、30代～50代が多く、40代が1番多い。講座内容についても、年代を意識した工夫が必要であることは明らかである。開催を希望する声を受け止め、今後の講座内容選定に役立てたい。

貸館の利用者から開催を希望するという意見があった講座

- ・大人向けのバレーボール教室
- ・健康増進のための講座
- ・スポーツなどの運動に関する講座
- ・スマホやパソコンの便利な使用法講座
- ・韓国語の講座





